２０１１．９．２７

プレスリリース

# 「内外の化繊工業の動向」

## ２０１１年　第２四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さるよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会
（お問合せ先　業務調査グループ　TEL　03-3241-2313）

# 概　　要

## （2011 年第２四半期）

2011 年 4-6 月のわが国の景気は、東日本大震災の影響により弱い動きとなった。生産活動は時間とともにサプライチェーンの建て直しが進んだことで徐々に回復が見られたが、企業の設備投資は弱く、雇用情勢も厳しい状況が続いた。

化繊景況も震災による自動車生産の減少による影響が見られたが、生産への大きな影響は見られなかった。円高により引き続き衣料品を中心に輸入品が増加しており、国産品の回復は力強さを欠いている。

## 国　　内

１）国内景気は、東日本大震災の影響により弱い動きとなっており、また失業率が依然高い水準にあるなど厳しい状況にあった。しかし、期後半に入りサプライチェーンの立て直しが当初の見込みよりも早く進み、生産活動の回復に伴い、景気は上向きの動きがみられた。

繊維景況は震災による自動車生産の減少による影響が心配されたが、生産への影響は限定的なものであった。しかし円高の進行による輸出採算の悪化、輸入製品の増加といった不安要因もあり、回復基調にあったがここにきて足踏みしている。

衣料用は、ファッション衣料は引き続き厳しかったが、節電対応のクールビス商品等の実用衣料、ダウンジャケット向け高密度織物は堅調に推移した。インテリア用は、カーシートやカーマットなどの自動車関連商品が自動車生産の減少による影響を受けた。産業資材用では、タイヤコードは補修用に好調により新車用の不振をカバーした。シートベルト・エアバッグは新車限定のため勢いを欠いた。建築関連は、震災復興需要による効果はまだ見られなかった。

２）生産指数は、繊維工業全体では前年比 0.3%増・前期比 0.2％減、化繊は 2.2％増、3.1%減。紡績は 4.9%増、1.0%増と、紡績を除いて前期比減少した。在庫指数（期末）は、繊維工業が前期比 0.2％減、化繊 8.0％減、紡績 8.4％増と紡績を除き減少した。（生産、在庫とも指数ベースの比較）

３）繊維品輸出は、ドルベースで 25.8 億ﾄﾞﾙ・前年比 17.8%増と 6 四半期続けて前年比増加。また円ベースでも 2,111 億円・4.6％増。形態別（ﾄﾞﾙﾍﾞｰｽ）では、繊維原料（前年比 25.0%増）、糸類（21.1%増）、織物類(21.1%増)、二次製品他（11.0%増）と全ての段階で 2 桁増となった。主な仕向地別では、全体の 36%を占める中国は 10.0 億ﾄﾞﾙ・18.5％増と引き続き好調。アセアン向けは、タイ（14.5%増）・インドネシア（10.5%

増、ポリエステルＳ6.8%増、アクリルＳは12.3%増となった。織物（面積ベース）は 4.3%増、うちナイロンＦ織物は 3.5%増、ポリエステルＦ織物は 2.1%増、ポリエステルＳ織物 1.4%増。また化繊不織布（重量ベース）は長繊維が 16.1%減、短繊維は 8.3%増であった。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は 31.8 万ﾄﾝ・16.8%増。繊維原料（1.4 万ﾄﾝ・1.2%増）、糸類（5.3 万ﾄﾝ・13.1%増）、織物（面積ベース、1.78 億㎡・31.9%増）、二次製品は 22.8 万ﾄﾝ・20.6%増、うち衣類は 10.6 万ﾄﾝ・22.1%増となった。また、不織布（重量ベース）は長繊維が 24.3%増、短繊維は 11.5%増と増加している。

**化学繊維の主要指標**

| 項　　目 | 単位 | 10.4-6 | 11.1-3 | 11.4-6 | 前年比(%) | 前期比(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 化繊生産 | 千ﾄﾝ | 256.8 | 255.4 | 260.0 | 1.3 | 1.8 |
| セルロース | 〃 | 44.5 | 44.0 | 42.1 | -5.3 | -4.3 |
| 合　繊 | 〃 | 212.2 | 211.4 | 217.8 | 2.6 | 3.1 |
| 化繊在庫 | 〃 | 89.5 | 85.7 | 83.8 | -6.4 | -2.3 |
| セルロース | 〃 | 16.7 | 15.2 | 15.3 | -8.7 | 0.7 |
| 合　繊 | 〃 | 72.8 | 70.6 | 68.5 | -5.9 | -2.9 |
| 化繊輸出 | 千ﾄﾝ | 157.5 | 160.4 | 168.5 | 7.0 | 5.1 |
| | 100万ﾄﾞﾙ | 1,369.0 | 1,408.1 | 1,619.8 | 18.3 | 15.0 |
| | 億円 | 1,259.0 | 1,158.5 | 1,324.1 | 5.2 | 14.3 |
| 繊維原料 | 千ﾄﾝ | 79.8 | 84.3 | 86.1 | 7.8 | 2.1 |
| 糸　類 | 〃 | 26.8 | 30.1 | 28.9 | 7.8 | -3.7 |
| 織物類 | 百万㎡ | 170.0 | 139.4 | 177.3 | 4.3 | 27.2 |
| 二次製品 | 千ﾄﾝ | 23.6 | 21.3 | 24.1 | 2.2 | 13.0 |
| 化繊輸入 | 千ﾄﾝ | 272.2 | 305.7 | 318.0 | 16.8 | 4.0 |
| | 100万ﾄﾞﾙ | 2,777.3 | 3,835.3 | 3,795.8 | 36.7 | -1.0 |
| | 億円 | 2,560.1 | 3,156.4 | 3,103.9 | 21.2 | -1.7 |
| 繊維原料 | 千ﾄﾝ | 13.9 | 14.9 | 14.0 | 1.2 | -6.0 |
| 糸　類 | 〃 | 46.6 | 53.2 | 52.6 | 13.1 | -1.0 |
| 織物類 | 百万㎡ | 135.1 | 161.1 | 178.1 | 31.9 | 10.5 |
| 二次製品他 | 千ﾄﾝ | 189.2 | 212.1 | 228.2 | 20.6 | 7.6 |
| （うち衣　類） | 〃 | (86.6) | (106.8) | (105.7) | 22.1 | -1.0 |

（出所）経済産業省、財務省
（注）1.在庫は生産者在庫で各期末 2.化繊輸出入の計には化繊くずを含む

６）主要合繊品種の動向は次の通り。

**ポリエステルＦ**： 生産は 44,696 ﾄﾝ・前年同期比 5.9%減。織物生産は 10,295 万㎡・12.6%増。衣料用は、クールビズ商品向けで盛り上がりが見られ、次シーズンも期待が持てる。高密度織物は好調を持続、織りスペースは引き続きタイト。裏地は婦人向けがファッション系衣料の不振により盛り上がりを欠いている。水着関連は震災による各種イベントの中止により不振。コンプレッションウェアはここに来て一段落。自動車関連では、タイヤコード向けは補修用の好調により、新車用の落ち込みをカバーした。ポリエステルタイヤコード織物輸入は 19.5%増と増加基調にある。シートベルトも震災の影響が少なかっ

たが、カーシートは流通在庫の調整が手間取り回復が遅れている。フィラメント輸出は、6,895㌧・1.2%増、強力糸が主体のタイが1,544㌧・同17.6%増、中国1,186㌧、米国679㌧、香港470㌧、台湾464㌧。輸入は、28,338㌧・12.3%増、台湾1万2,823・20.0%増、タイ4,015㌧、インドネシア3,859㌧、中国3,575㌧、韓国3,126㌧。

**ポリエステルＳ**： 生産は39,812㌧・前年同期比0.8%減。紡績用は、綿混は綿花価格の高騰による代替需要により堅調に推移していたが、5月に入り綿花価格の下落とともに一転低位となった。綿混、レーヨン混とともにユニフォーム関係は震災需要により堅調。純糸は帆布が震災需要により堅調。製綿用は例年端境期のため低位となるが、震災により寝具類で活発な動きがあった。不織布用は、衛材は震災により一部衛材メーカーが被災したものの堅調に推移。生活資材も震災によりウェットティッシュ向け、暑さとともに「清感シート」向け需要が活発であった。パップ剤は震災による薬剤不足により苦戦、また車両資材も自動車生産の減少により厳しかった。産業資材向けは総じて低調の中、仮設住宅向け断熱材がガラス繊維の代替需要により堅調に推移した。ステープル輸出は 6.8%増の10,708㌧。タイ、中国、欧州、米国向けが増加した。ステープル輸入は8.7%増の6,444㌧。韓国、タイ、台湾は減少したが、中国からは高水準の輸入が続いている。

**ナイロンＦ**：生産は22,864㌧・前年同期比横這い。織物生産は3,368万㎡・19.7%増。衣料用は、レッグ関連ではレギンス・トレンカの需要が一巡、プレーンパンストの復活が見られる。ハイテンションニットは、国内向けが調整地合いの中、中国向け輸出は引き続き順調に推移。高密度織物はダウンジャケット向けが堅調を持続、アウトドア用も活発な欧米での需要に支えられ堅調に推移しているが、円高により採算面は厳しい。タイヤコード向けは、好調な補修用、キャッププライ向けの健闘に加え、建機用の好調により、自動車の減産影響は少なかった。エアバッグ向けは新車用に限られるため厳しかった。船舶係留用ロープは、津波により漁船用ロープが大量に流されたため活発。カーペットは、タイルは新築物件が乏しく低迷、自動車用も高級車の販売不振により苦戦。フィラメント輸出は、4,311㌧・10.2%減、中国973㌧・同2.0%減。タイ809㌧およびフィリピン709㌧はエアバッグ用が不振のため大幅減となった。フィラメント輸入は7,334㌧・6.4%増。台湾1,629㌧・3.8%増、中国985㌧、米国890㌧、韓国760㌧ともに増加している。

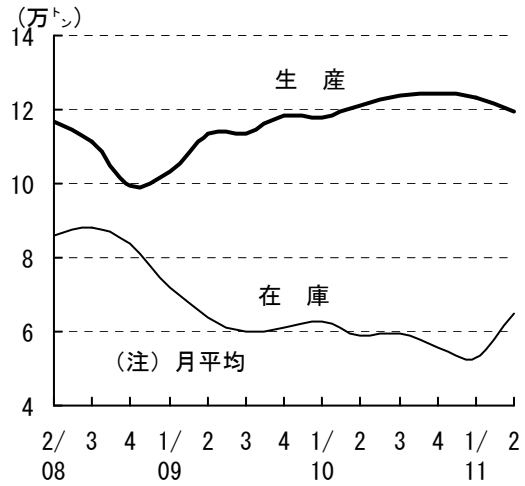
**アクリルＳ**：生産は40,174㌧・前年同期比4.9%増。紡績糸生産は3,050㌧・2.9%減となった。内需は、保温肌着向けは「ウォームビズ」対応により順調に推移した。一方で厚手のセーターはトレンドが「重ね着」のため苦戦。靴下も「ウォームビズ」の「実用衣料」として堅調に推移した。毛布は、震災により流通在庫が一掃、備蓄需要が期待されるが主流は中国品となる模様。カーペットも長繊維化により、カーペットカバーなどに用途は限

られてきたが、これも中国品が主流となっている。ステープル輸出は、中国向けは 21,749 ㌧・16.7%増と好調、世界的なファーブームが到来する中、フェイクファー用に日本品への引き合いが旺盛である。インドネシアは 3,198 ㌧・10.1%減。かつての主力市場であったイラン向けは今期実績が皆無であった。経済制裁による制約に加え、カーペット用レギュラーわたが中心のため復活は難しいと見られている。アフリカ、米国向けは堅調に推移している。

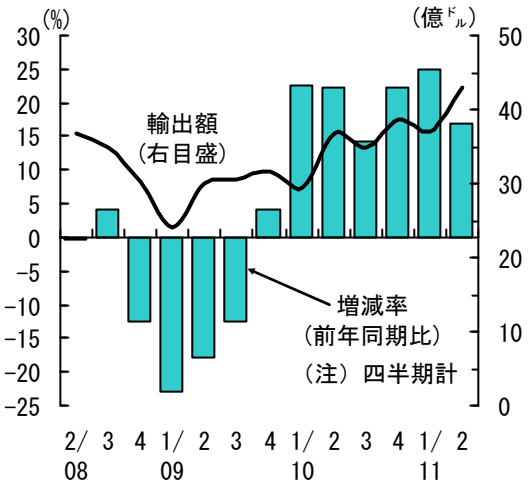
海　　外

7）韓　　国

合繊生産･在庫



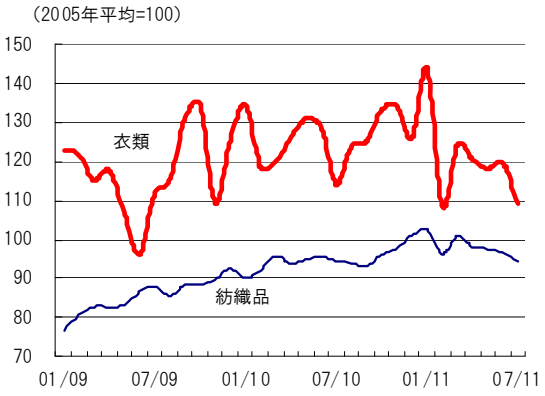

繊維品輸出




相手別繊維製品輸出
(1～7月)

| | | 輸出額 (100万ﾄﾞﾙ) | 前年比 (%) |
|---|---|---|---|
| 紡織品 | 世界計 | 7,343 | 17.0 |
| | 中国 | 1,434 | 14.4 |
| | ベトナム | 992 | 30.4 |
| | インドネシア | 710 | 21.2 |
| | 米国 | 518 | 12.7 |
| 衣類 | 世界計 | 1,060 | 18.6 |
| | 日本 | 229 | 8.8 |
| | 中国 | 211 | 28.2 |
| | 米国 | 172 | -2.6 |
| | ベトナム | 107 | 66.6 |

繊維産業の生産指数推移




◆合繊生産は 8 期ぶり前年実績割れも、繊維品輸出は好調に推移した。

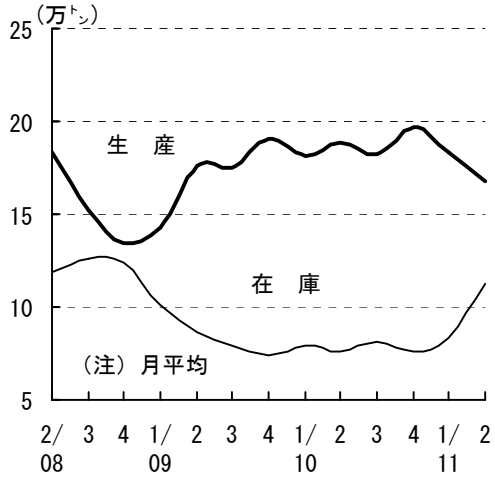
◆合繊生産（4-6 月、以下同様）は前年同期比 1.5%減の 35.8 万ﾄﾝ。一方で、期末在庫は前年同月比 20.3%増の 7.1 万ﾄﾝと急増した。

◆繊維品輸出は前年同期比 16.9%増の 43.0 億ﾄﾞﾙ、6 期連続で前年実績を上回った。相手別にみると、紡織品では、衣類輸出の好調なベトナム向け、衣類では、中国、ベトナム向けが好調に推移している。

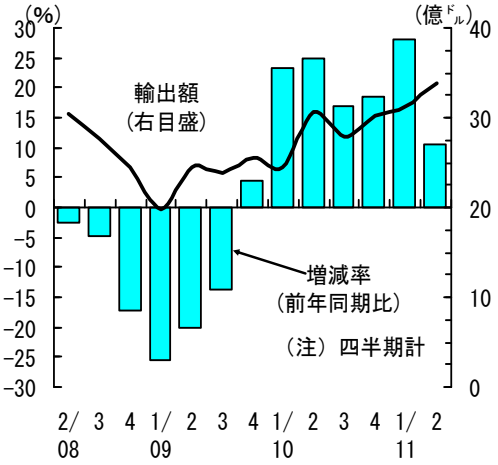
◆直近（2011 年 7 月）の繊維品生産指数をみると、紡織品は前年同月比横ばい、衣類は 4.4%減の減少となった。

## 8）台　　湾

化繊生産･在庫




繊維品輸出




相手別繊維製品輸出
(4～6月)

| | 輸出額 (100万ﾄﾞﾙ) | 前年比 (%) |
|---|---|---|
| 世界計 | 3,376 | 10.5 |
| 中国 | 752 | 7.2 |
| ベトナム | 471 | 15.0 |
| 香港 | 403 | -4.9 |
| 米国 | 253 | -0.7 |
| インドネシア | 174 | 16.9 |
| 日本 | 120 | 39.7 |
| タイ | 102 | 9.0 |

主要繊維品生産
(4-6月)

| | 単位 | 生産量 | 前年比 (%) |
|---|---|---|---|
| 合成繊維 | ﾄﾝ | 458 | -16.6 |
| ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ加工糸 | ﾄﾝ | 161 | -8.9 |
| ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ織物 | 100万㎡ | 274 | -10.3 |
| 各種衣類 | ﾀﾞｰｽ | 1,193 | -24.9 |

◆合繊生産は８期ぶりの減少も、繊維品輸出は続伸となった。

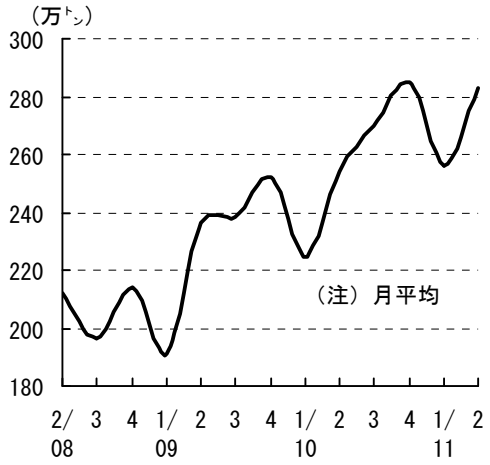
◆化合繊生産（4-6 月、以下同様）は前年同期比 11.0%減の 50.3 万ﾄﾝとなった。品種別にみると、ナイロンＦは 19.5%減の 7.4 万ﾄﾝ、ポリエステルＦは 7.1%減の 25.3 万ﾄﾝ、同Ｓは 10.5%減の 13.1 万ﾄﾝといずれも大幅減､アクリルＳは 5.9%増の 2.6 万ﾄﾝとなった。

◆繊維品輸出は前年同期比 10.5%増の 33.8 億ﾄﾞﾙ、６期連続で前年実績を上回った。中国向けは 7.2%増と１桁台の伸びに鈍化したが、ベトナム、インドネシアなどのアセアン向けが大幅増となった。

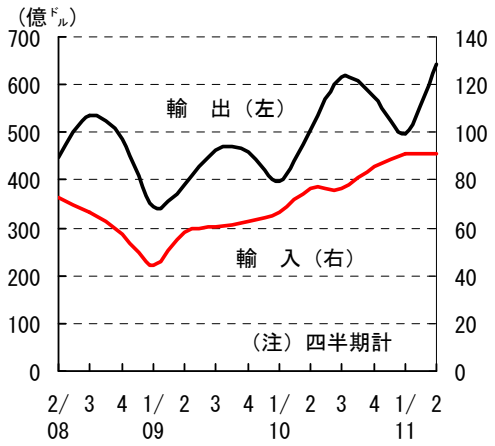
◆主要繊維品の生産は軒並み前年実績割れ。ポリエステル加工糸、ポリエステル織物、衣類生産はそれぞれ 8.9%減、10.3%減、24.9%減となった。

## 9）中　　国

化繊生産の推移




繊維品貿易の推移




品種別化繊生産
（4～6月）

| | 生産（万ﾄﾝ） | 前年比（%） |
|---|---|---|
| ポリエステル | 696.9 | 13.2 |
| ナイロン | 42.3 | -0.7 |
| アクリル | 16.1 | 6.6 |
| 合繊計 | 779.7 | 11.2 |
| レーヨン | 64.6 | 21.1 |
| 化合繊計 | 849.2 | 11.3 |

主要化繊・合繊原料輸入実績
（4～6月）

| | 輸入（万ﾄﾝ） | 前年比（%） |
|---|---|---|
| ポリエステルF | 3.9 | -5.1 |
| ポリエステルS | 2.7 | -19.5 |
| ナイロンF | 4.6 | -12.5 |
| アクリルS | 4.8 | 1.4 |
| テレフタル酸 | 160.0 | -7.9 |
| エチレングリコール | 168.8 | -0.5 |
| カプロラクタム | 14.4 | -14.6 |

◆化繊生産、繊維品輸出、内需とも順調に拡大している。

◆繊維品輸出（4-6 月、以下同様）は前年同期比 27.9%増の 643 億ﾄﾞﾙ、6 期連続で前年実績を上回った。一方、繊維品輸入は、綿花/原油価格の高騰の影響もあり 19.0%増の 91 億ﾄﾞﾙとなった。

◆化繊生産は 11.3%増の 849 万ﾄﾝと 2 桁増を維持している。品種別には主力のポリエステルは 13.2%増の 697 万ﾄﾝ、ナイロンは 0.7%減の 42 万ﾄﾝ、アクリルは 6.6%増の 16 万ﾄﾝ、レーヨンは 21.1%増の 65 万ﾄﾝとなった。

◆主要化繊および合繊原料の輸入をみると、アクリル S を除き減少となった。ポリエステルは、F が 5.1%減、S が 19.5%減、合繊原料輸入は、テレフタル酸は 7.9%減、エチレングリコールは 0.5%減、カプロラクタムは 14.6%減と国内供給の拡大もあり、いずれも減少となった。

相手別繊維製品輸出
（1～7月）

| | 輸出額（億ﾄﾞﾙ） | 前年比（%） |
|---|---|---|
| 世界計 | 1,411 | 25.3 |
| アジア | 588 | 25.0 |
| 香港 | 90 | 4.4 |
| 日本 | 145 | 24.5 |
| 韓国 | 36 | 28.8 |
| アセアン | 112 | 41.1 |
| ＥＵ | 320 | 29.2 |
| 米国 | 215 | 13.5 |

繊維業界の主要指標
（1～6月）

| | 単位 | 指標 | 前年比（%） |
|---|---|---|---|
| 企業数 | 万社 | 3.5 | - |
| 赤字企業数 | 万社 | 0.5 | -1.7 |
| 主要業務収入 | 億元 | 24,211 | 30.5 |
| 利潤総額 | 億元 | 1,225 | 41.3 |
| 工業総生産額 | 億元 | 25,022 | 30.0 |
| 就業人数 | 万人 | 993 | 7.1 |
| 繊維産業実際投資 | 億元 | 2,956 | 37.6 |
| うち化繊産業 | 億元 | 303 | 53.3 |

全国主要大型小売店の販売額
（1～6月）

| | 単位 | 数値 | 前年比（%） |
|---|---|---|---|
| 商品売上総額 | 億元 | 38,171 | 24.9 |
| うち衣類 | 億元 | 9,018 | 24.4 |
| 婦人服 | 万点 | 6,920 | 9.2 |

繊維関連物価指数
（2011年1～6月）

| | 前年同月比（%） |
|---|---|
| 企業物価指数（出荷）・衣類 | 4.5 |
| 小売価格指数・紡織品 | 5.8 |
| 小売価格指数・衣類等 | 0.7 |

◆2010 年 1-7 月の相手別繊維品輸出をみると、EU 向け、米国向けは、債務危機問題の表面化があったもののそれぞれ 29.2%増、13.5%増といずれも増加した。一方で、FTA の効果もあり、アセアン向けが 41.1%の大幅増となった。日本向けは 24.5%増と回復が顕著となった。

◆1-6 月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、好調な内需や堅調な原料、紡織品価格の推移から、主要業務収入は 30.5%増、利潤は 41.3%増と好調な収益となった。繊維産業の実際完成投資は 37.6%増、化繊産業は 53.3%増と大幅な拡大が続いている。

◆繊維産業の衣料用内需は好調に推移している。1-6 月の衣類売上（主要大型小売店）は前年同期比 24.4%増と 2 割を超える増加が続いている。一方で、物価指数をみると、綿花/原料価格の高騰によって、企業物価は上昇しているが、末端の競争が激化していることもあり、衣類の小売物価の伸びは 0.7%増と低い上昇にとどまっている。

１０）米　　国

**・合繊生産**

2011 年 1～7 月の合繊生産は前年同期比 1.4%増の 162.0 万ﾄﾝであった。主要品種別にみると、ナイロン F は、紡織用、カーペット用は依然不振ながら産資用の回復で、全体では前年比横ばいの 34.0 万ﾄﾝであった。カーペット用が 9 割超を占めるナイロン S は縮小に歯止めがかからず、前年比 20.3%減の 1.9 万ﾄﾝ。INVISTA は、カナダ Ontario 州 Kingston 工場のエアバッグ用ナイロン 66F を 2012 年第 2 四半期に約 7,000 ﾄﾝ増設する計画である。

ポリエステル F はカーペット用が 26%増と好調を続け、8.8%増の 31.9 万ﾄﾝであった。ポリエステル S は 7.2%増の 36.2 万ﾄﾝ。カーペット向け出荷は 23%減であったが、詰め綿向け、不織布向けが 5%増と堅調。紡績向けも 2 桁増となっている。米国際貿易委員会は、台湾、韓国産のポリエステル短繊維の一部(3d 以上、カット長 25-127mm)に実施している反ダンピング措置の延長を決定した。DAK Americas は Wellman の PET 事業を買収した。

オレフィン F は、モノフィラメント･スパンボンド･フィルムファイバーが 4%の出荷増と堅調であるが、マルチフィラメントは 18%減となり、生産は全体で 3.4%減の 47.4 万ﾄﾝ。オレフィン S は 6.2%減の 10.6 万ﾄﾝであった。

**主要合繊の生産高（１～７月）**

（1000 ﾄﾝ）

| | 2010 | 2011 | 増減 | 前年同期比(%) |
|---|---|---|---|---|
| ナイロンF | 340.2 | 340.2 | 0.0 | 0.0 |
| 産資用 | 36.0 | 41.1 | 5.2 | 14.4 |
| ｶｰﾍﾟｯﾄ用 | 285.7 | 281.5 | -4.3 | -1.5 |
| 紡織用 | 18.6 | 17.6 | -0.9 | -4.9 |
| ナイロンS | 23.9 | 19.1 | -4.9 | -20.3 |
| ポリエステルF | 293.1 | 319.0 | 25.9 | 8.8 |
| 産資用 | 74.4 | 71.7 | -2.8 | -3.7 |
| ｶｰﾍﾟｯﾄ用 | 113.9 | 141.6 | 27.7 | 24.3 |
| 紡織用 | 104.7 | 105.7 | 1.0 | 1.0 |
| ポリエステルS | 337.6 | 362.0 | 24.4 | 7.2 |
| オレフィンF | 490.9 | 474.2 | -16.7 | -3.4 |
| オレフィンS | 112.7 | 105.7 | -7.0 | -6.2 |
| 合繊計 | 1,598.4 | 1,620.1 | 21.8 | 1.4 |

（出所）FEB

**・輸　　入**

2010 年の 1～7 月の繊維製品輸入は前年同期比 12.4%増の 568 億ﾄﾞﾙとなった。仕出地別にみると、中国が 9.2%増の 216 億ﾄﾞﾙに止まり、中国の輸入全体に占める割合は前年同期の 39%から 38%に低下した。一方、バングラデシュ（28%増）、ベトナム（19%増）、インドネシア（18%増）などの低コスト国からの輸入が引き続き大幅に増加している。衣料輸入は 13.1%増の 432 億ﾄﾞﾙであった。中国が 9%増、メキシコが 7%増にとどまっている。一方で、バングラデシュ、インドネシア、ベトナムが大幅増となっている。

**繊維製品輸入実績（１～７月）**

（100 万ﾄﾞﾙ）

| 繊維製品計 | | | | うち衣類 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 仕出地 | 2008 年 | 2009 年 | 前年比(%) | 仕出地 | 2008 年 | 2009 年 | 前年比(%) |
| 中国 | 19,777 | 21,595 | 9.2 | 中国 | 13,975 | 15,196 | 8.7 |
| ベトナム | 3,401 | 4,033 | 18.6 | ベトナム | 3,165 | 3,707 | 17.1 |
| インド | 3,210 | 3,597 | 12.1 | ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | 2,542 | 2,996 | 17.8 |
| ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ | 2,683 | 3,165 | 18.0 | ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ | 2,135 | 2,744 | 28.5 |
| ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ | 2,218 | 2,844 | 28.2 | メキシコ | 2,028 | 2,178 | 7.4 |
| 世界 | 50,574 | 56,822 | 12.4 | 世界 | 38,228 | 43,233 | 13.1 |

（出所）米商務省

１２）欧　　州

**・合繊生産**

合繊生産は全般的に増産基調を続けている。産資用ナイロン F は前年比 8.2%増の 6.1 万ﾄﾝ。紡織用ポリエステル F は 5.4%増の 14.6 万ﾄﾝであった。産資用ポリエステル F は 14.9%増の 8.1 万ﾄﾝと大幅増。ポリエステル S は 3.4%増の 33.6 万ﾄﾝであった。アクリル S は 1.8%減の 28.5 万ﾄﾝであった。

**主要合繊の生産高（１～６月）**

（1000 ﾄﾝ、%）

| | 2010 | 2011 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|
| 産資用ナイロン F | 56.4 | 61.0 | 8.2 |
| 紡織用ポリエステル F | 138.5 | 146.0 | 5.4 |
| 産資用ポリエステル F | 70.6 | 81.1 | 14.9 |
| ポリエステル S | 324.5 | 335.6 | 3.4 |
| アクリル S | 290.7 | 285.4 | -1.8 |

（出所）CIRFS

・企業動向

イスラエルのNilitは、ドイツOestringenにあるナイロン66F工場（年産3万㌧規模）を、2012年第2四半期に閉鎖する計画である。同工場は2006年にNilitがINVISTAの欧州事業を買収した際に獲得したもの。

タイのIndorama VenturesとイタリアのSinteramaは7月、ドイツのポリエステル繊維メーカーTreviraを共同で買収した。新会社はTrevira Holdings GmbH。

トルコ財閥のSabanci Holdingは、欧州子会社ADVANSA BVを投資グループに売却。ADVANSAはドイツに年産4万㌧のポリエステルS工場を有する。

ドイツのレーヨンS繊維メーカーKelheim Fibresは生産ラインを新鋭化し、生産能力を年産約12.2万㌧に拡大する。

ＪＣＦＡ

## 合繊4品種需要実績

Ⅰ. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

| | | 2011年4～6月実績 | 対前期比 | 対前年同期比 |
|---|---|---|---|---|
| 国内需要 | 衣料用(加工品輸出用含む。) | 21,225 | 97.5 | 104.1 |
| | 非衣料用(加工品輸出用含む。) | 48,442 | 92.7 | 100.2 |
| | 計 | 69,667<br>(28,338) | 94.1<br>(93.3) | 101.3<br>(112.3) |
| 輸出(原糸、加工糸) | | 3,614 | 84.6 | 84.8 |
| 需要計 | | 73,281 | 93.6 | 100.4 |
| 在庫 | | 14,997 | 103.6 | 89.8 |

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

Ⅱ. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

| | | 2011年4～6月実績 | 対前期比 | 対前年同期比 |
|---|---|---|---|---|
| 国内需要 | 紡績用(加工品輸出用含む。) | 5,744 | 110.4 | 130.3 |
| | 非紡績用(加工品輸出用含む。) | 26,617 | 80.5 | 84.7 |
| | 計 | 32,361<br>(6,444) | 87.3<br>(78.2) | 93.0<br>(108.7) |
| 輸出(ステープル・トウ・トップ) | | 8,925 | 97.9 | 111.4 |
| 需要計 | | 41,286 | 89.4 | 96.4 |
| 在庫 | | 22,815 | 116.4 | 103.9 |

(注) 国内需要の( )内数値は輸入量

Ⅲ. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

| | | 2011年4～6月実績 | 対前期比 | 対前年同期比 |
|---|---|---|---|---|
| 国内需要 | 衣料用(加工品輸出用含む。) | 10,603 | 102.8 | 103.1 |
| | 非衣料用(加工品輸出用含む。) | 16,057 | 97.7 | 98.3 |
| | 計 | 26,660<br>(7,335) | 99.7<br>(103.0) | 100.2<br>(106.4) |
| 輸出(原糸、加工糸) | | 2,664 | 69.4 | 77.3 |
| 需要計 | | 29,324 | 95.9 | 97.6 |
| 在庫 | | 10,932 | 108.5 | 123.1 |

(注)国内需要の( )内数値は輸入量

Ⅳ. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

| | | 2011年4～6月実績 | 対前期比 | 対前年同期比 |
|---|---|---|---|---|
| 国内需要 | 衣料用(加工品輸出用含む。) | 8,170 | 108.6 | 119.9 |
| | 非衣料用(加工品輸出用含む。) | 3,163 | 115.0 | 94.0 |
| | 計 | 11,333<br>(404) | 110.3<br>(227.0) | 111.3<br>(96.9) |
| 輸出(ステープル・トウ・トップ) | | 30,306 | 110.3 | 108.4 |
| 需要計 | | 41,639 | 110.3 | 109.2 |
| 在庫 | | 8,063 | 94.8 | 102.9 |

(注) 国内需要の( )内数値は輸入量